

がんセンター

■ スタッフ

センター長		水野聡朗（腫瘍内科）
副センター長		小塚祐司（病理部） 福永雅子（看護部）
医師	常勤	3
看護師	常勤	1
事務職員	常勤	1
	非常勤	10

■ がんセンターの特色

がんセンターは、医学部附属病院内の各診療科の縦割りの垣根を超えて、診療科横断的に、適切ながん集学的治療、チーム医療を推進するための活動を行っています。開設当初は、支援系統 5 部門、診療系統 11 部門の計 16 部門で構成されていましたが、2022 年 11 月の総合がん治療センター設立を契機に、がん支援センターとして組織の見直しがなされました。新しい組織は、緩和ケア unit、がん相談 unit、外来化学療法 unit、がん登録 unit、人材育成 unit、Tumor Board、がん診療連携 unit、広報 unit、口腔ケア unit、UICC unit、看護 unit で構成されています。がん診療を様々な面からサポートすることに特化した組織に改変されとも言えると思います。リーダー会議については、県の医療保健部の担当者にこれまで通り参加いただき、隔月で WEB 形式で、院内のがん医療についての情報共有や意見交換と県のがん対策の取り組みについて協議しています。

■ 活動内容

各部門のうち、がん登録 unit、Tumor Board、口腔ケア unit、がん相談 unit、PDCA サイクル部門、人材育成 unit などの動内容についてご紹介します。

がん登録部門：がん登録部門では、三重大学医学部附属病院の院内がん登録と、三重県より委託を受けて行なう三重県がん登録（全国がん登録）を担当しています。また、都道府県がん診療連携拠点病院の役割として、県内の医療機関が正確ながん登録を行えるよう、県内各拠点病院の登録実務担当者の協力も得て、実務担当者向けの研修会を定期的に開催しています。

Tumor board：がんセンターでは定期的な活動とし

て、病院全体で tumor board を開催して、確定診断が困難な症例、治療が複数の診療科に関わる症例について、最適な治療方針を迅速に決定するための協議を行っています（毎月、第二水曜日の午後 6 時より）。これまでは、画像診断や病理診断の専門医、外科手術、化学療法、放射線療法、緩和ケア等の専門医、さらに関連の薬剤師、検査技師、放射線技師、看護師、臨床心理士、MSW 等の関係者が毎回 100 名前後参加し、活発な討議が行なわれていました。ここ 2 年近くのコロナ禍では、多数参加による開催は難しいと判断し、関連する診療科に参加人数を限定して開催していましたが、感染症管理を徹底することで、2021 年 7 月からは院内すべての方を対象としました。



骨軟部腫瘍に特化した骨軟部腫瘍カンファレンスも月 1 回（毎月第 4 月曜）の定期開催されています。

PDCA サイクル部門：平成 26 年のがん診療連携拠点病院等の整備に関する指針が出され、診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策（PDCA サイクル）を講ずることが指定要件に加えられました。2022 年の活動としては、がん質評価指標開発班会議（東京大学水流班）・研究会への参加、2022 年 11 月に「第 11 回がん診療体制の質に関する調査」を実施、2022 年 2 月 6 日には都道府県がん診療連携拠点病院 PDCA サイクルフォーラムに参加しました。2022 年 9 月 5 日は WEB 開催で県の PDCA サイクル部会を開催し、第 10 回の調査結果の報告、血液領域のミニ調査票の取り組みについて、伊勢赤十字病院の血液内科玉木先生から報告がありました。

医科歯科連携部会研修会：口腔ケア部門の活動の一つである医科歯科連携部会は、3 月 30 日に WEB 形

式で三重県歯科医師会、三重県医療保健部健康推進課の参加で開催されました。部会の引き続き、医科歯科連携部会研修会が開催されました。特別講演では羽津医療センター統括診療部長の長谷川浩司先生から「医科歯科連携 歯科診療と肝疾患」というタイトルでご講演頂きました。

がんチーム医療研究会：がん医療に携わる医師、薬剤師、看護師等の多職種連携の勉強の場として、がんチーム医療研究会を、昨年同様2022年も完全Web形式で9月9日に開催しました。例年一般演題と特別講演で構成されていたのですが、今年度は「高齢者のがん治療」をテーマとして、基調講演として埼玉医科大学国際医療センター腫瘍内科の濱口哲也先生から「高齢者のがん薬物療法：理想と現実の狭間で」のタイトルで講演をして頂きました。その後、当院薬剤部の小田先生から「がん患者への高齢者機能評価と薬剤師の取り組み」、岡波病院看護部の中先生から「認知症患者と意思決定支援」というタイトルで、それぞれ実地臨床での経験を交えて講演がありました。

がんプロフェッショナル養成プラン：がんセンターでは、「がんプロフェッショナル養成プラン」によるがん専門医療人の育成に取り組んでおり、連携する京都大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学と研修会を開催してきました。

連携大学間の取組事業の一環として、2022年11月2日には、5大学連携医療フォーラムが「ペイシェント・ジャーニーを考慮したがん治療」というテーマでWeb形式で開催されました。患者が病気を認知し、医療機関で診断・治療を進めていくプロセスである“ペイシェントジャーニー”について、患者会の代表者を交えて議論されました。

市民公開講座：教育部門では、がんに対する標準治療である薬物療法、手術療法、放射線療法のほか、先進医療や治験などの大学病院独自の最先端の情報を発信すべく公開講座という形で定期的に講習会を開催しております。そのうち、地域住民へのがん医療の啓発活動として、今年度も市民公開講座を開催しました。

2022年5月15日(日)に「生命の駅伝」とのジョイント公開講座は、コロナ感染症の蔓延のためハイブリット形式で開催されました。講演内容は、前半は生命の駅伝の寄付金受賞者の研究発表、後半はゲノム診療科の奥川先生から、「がんゲノム診療と総合がん治療センター構想について」と題して講演が行

われました。

2023年3月11日(日)には、三重県総合文化センターにて「知ってほしい。食道がんについて」と題して第15回市民公開講座が現地とWEBのハイブリット形式で開催されました。池田病院長の挨拶から、消化器内科の田中匡介先生、消化管外科の大井正貴先生、放射線治療科の高田彰憲先生、腫瘍内科の戸野泰孝先生の4名から各領域の基調講演があり、後半のパネルディスカッションは、福永看護副部長の司会のもと、リハビリテーション部の伊藤理学療法士、栄養診療部の森栄養士が加わって食道がんの診断・療養に関して、活発なディスカッションがなされました。感染状況にもよりますが、次回もハイブリット形式での開催を予定しています。



2023年3月11日の市民公開講座

がん教育：県のがん対策として取り組んでいるがん教育の出前授業については、コロナ感染症のため本年度は依頼が非常に少なかったです。特に、三重大学の管理区域である中勢・伊賀地域における医療者の講師派遣の依頼はありませんでした。コロナ感染の収束した来年度からの活動に向けて現在準備をしています。

がん相談支援部門：患者さんやご家族の多様な相談内容に、相談支援専門の看護師長、がん看護専門看護師、医療ソーシャルワーカー、臨床心理士、医療事務などが応じております。国立がんセンター、県内がん拠点病院、県がん相談支援センター、県健康づくり室などと実務者会議を定期的に開催し、患者さんの相談支援機能を強化しています。

免疫療法対策チーム

当院でも平成30年7月に免疫療法対策チームが結成され、免疫関連有害事象(immune-related adverse events, irAE)を中心とするさまざまな有害事象に関わる診療科の医師、薬剤師、看護師、医療安全管理

部とともに活動をしています。

2021年27日に令和3年度の第1回の会議が開始されました。院内でのirAEの発症状況の報告、がん免疫療法有害事象対策院内マニュアルの改訂が審議され、特にマニュアル改訂では、治療中のコロナワクチン接種についての文言が追加されました。